

産地、今(7)

リレー随筆

静岡県のセルリー産地だより

(静岡県農業試験場普及課 古木孝典)



セルリー栽培風景

The Introduction of Celery-Producing District in Shizuoka By Takanori FURUKI

(キーワード：産地だより，セルリー，マメハモグリバエ，セルリー萎黄病，静岡県)

Ⅰ 産地の概要

静岡県の野菜園芸は、温暖な気象条件や、東西の二大都市圏の中間に位置するなど地理的条件にも恵まれ、施設野菜や秋冬露地野菜など多種類の野菜を生産している。

これら静岡県の特産野菜の代表に、西部地域で生産されているセルリーがある。主産地は浜松市、湖西市、浜北市、雄踏町などで静岡県全体の95%が生産され、その栽培面積は177 haである。

静岡県のセルリーは冬から春に出荷され、これに続き長野県が夏から秋に出荷を行い、二つの産地により全国生産の63%を担っている。浜松市を中心とした地域では「浜松洋菜協議会」を組織し、セルリーをはじめ10品目の洋菜を共販している。その中でも「共販委員会セルリー部会」は、販売面や生産対策の統一、出荷規格、出荷体制、他産地や出荷先の調査、消費活動の宣伝などの活動を活発に展開している。出荷物はすべて真空予冷を行っており、京浜、中京、京阪神市場など全国に出荷されている。

最近では、外国産の低価格品が国内産セルリーの価格にも影響を与えるなど、産地を脅かす要因は増大している。これに対処するために、大規模先進的経営体の育成、省力生産、出荷体制の整備を行う必要があり、西部農業改良普及センターでは、JAや経済連などとともに低コスト生産体制の確立や新たな流通形態への取り組みを実施している。

これまでに、定植の機械化、移植回数の削減、肥効調節型肥料による減肥実証を推進してきた。また、新しい流通形態への取り組みとして、小袋パック出荷やコンテナ出荷の試験を現在も継続実施している。

Ⅱ 近年問題化した病害虫

1 マメハモグリバエ

マメハモグリバエ (*Liriomyza trifolii* (BURGESS)) は、1990年に本県浜松市において国内で初めて発生が確認された。本種は、発見当初から合成ピレスロイド剤、有機リン剤、カーバメート剤等に抵抗性を示しており、瞬く間に地域全体に拡大した。本種はセルリーにも寄生し、幼虫は葉肉を潜孔して食害するため、葉表に白色の不規則な線状の潜孔痕が現れ、商品価値が低下し、産地に甚大な被害を及ぼした。

発生当初から、静岡県農業試験場は本種の生態の把握と有効薬剤の探索に着手し、同病害虫防除所は発生消長を調査した。現地の普及センター、農協等指導機関は、これら研究成果の情報を生産者に対し迅速に提供するとともに、生産者への防除対策指導を徹底して実施した。

関連農薬メーカーの協力により1997年にフルフェノクスロン乳剤、1999年にエマメクチン安息香酸乳剤がそれぞれ防除剤として登録が拡大された。産地内で広く活用されるに至った。

産地と関係機関が連携したこれらの取り組みによって本種の発生は年々減少し、1998年にはほぼ沈静化した(図-1)。

2 セルリー萎黄病

2000年秋、露地栽培と早期ハウス栽培の作型の圃場において、株の導管部が褐変し、外葉から黄化、萎凋した後、枯死にいたる症状が多発した(図-2)。診断の依頼を受けた農業試験場では病原菌の分離、同定と接種試験を行い、*Fusarium oxysporum* によるセルリー萎黄病であることを明らかにした。さらに翌年に

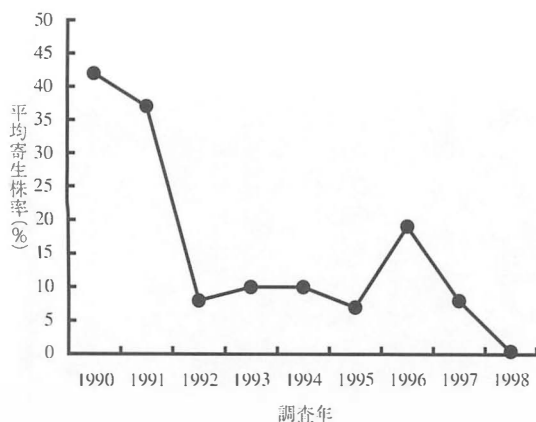


図-1 セルリーにおけるマメハモグリバエ発生程度の年次推移
平均寄生株率は静岡県病害虫防除所の巡回調査結果の平均値。



図-2 セルリー萎黄病罹病株

は、各種セリ科植物への接種試験により、セリ科植物に特異的に病原性を持つ分化型 (f. sp. *apii*) であることを確認した。これを受けて病害虫防除所は同年6月に病害虫発生予察特殊報を発表し、産地に対し防除対策の推進を呼びかけた。

診断結果を受けた普及センターは直ちに関係機関に呼びかけ、防除技術の確立と生産者への指導に係るプロジェクトチームを組織化し、対策を協議した。情報収集の結果、クロルピクリンくん蒸剤による土壌消毒が効果的であることが判明したが、当産地では今まで土壌病害による被害の経験がなく、市街化の進行する立地条件とあいまって、土壌消毒剤による防除方法の導入には二の足を踏む生産者が多く見受けられた。

これに対し、現地の指導機関は、畦立て・マルチ被覆と土壌消毒処理を同時に行うことで、処理時の臭気を低く抑え、作業労力の軽減化が可能な土壌消毒機や、薬剤を使用しない防除法として熱水または蒸気消毒機等の実演と実証展示を数多く実施し、これらの土壌消毒法の導入と普及を推進した(図-3)。一方、農

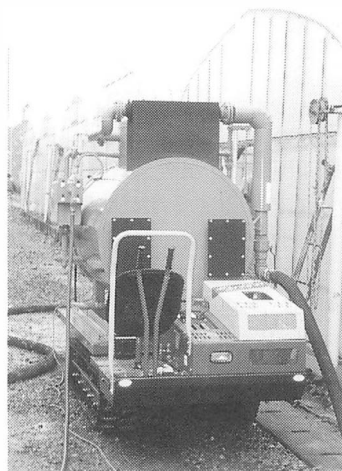


図-3 物理的防除法の事例(蒸気土壌消毒機)

業試験場では生産者が使用できる土壌消毒剤の選択肢を広げられるよう、登録拡大のための委託試験を現地圃場で実施した。

2002年1月、農協セルリー部会では「セルリー萎黄病防除対策指針」を策定し、現在、関係機関が一丸となり指針に基づく防除対策を推進中である。

発行図書

昆虫の飼育法

湯嶋 健・釜野静也・玉木佳男 共編 B5判 本文400頁

定価 12,232 円税込み (本体 11,650 円) 送料サービス

飼育施設・人工飼料の調整・飼育虫の病気対策など共通性のある問題を総論で解説し、各論では126種の虫ごとに材料・採集・餌・作業計画・注意事項と問題点・参考文献など实际的に飼育方法を解説した書です。

お申し込みは直接当協会へ、前金(現金書留・郵便振替)で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。

社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03)3944-1561(代) FAX (03)3944-2103 メール: order@jppa.or.jp